

## 第5回産業観光部会議事録

(日時) 平成28年2月8日 午後7時00分～午後9時

(場所) 下仁田町自然史館

(出席者) 須山 森川 山田 下山 高橋 鈴木 関谷 片山

### (1) 関東大会の反省

関東大会を無事終了することができました。ジオパークブースの担当として大会を盛り上げていただきありがとうございます。(鈴木)

ブースと文化ホールの上に荷物があって導線が切れていた(鈴木)

通路に花を置いたりすると誘導できるかもしれない(森川)

ねぎ祭りと一緒にやったことは今までの大会と比べてどのような効果があったのか(山田)

関係者だけのイベントから一般の方にも参加できるようになった(鈴木)

今年度から部会に参加しているが、まだジオパークのことがきちんとわかっていないのでどう勉強したらいいかを教えてほしい(山田)

モニタリングツアーにまずは参加してほしい(鈴木)

ジオパークがよくわからないというのは下仁田ジオパークが抱える問題の一つなのではないかと思う(山田)

### (2) 下仁田ジオパークブランドの運用計画

商品の募集のチラシ案を事務局で作成した。チラシと申請書がセットで配布予定。(鈴木)

期限を記載したほうがいい(森川)

課題取り組み状況のスケジュールに沿って進めていくのがいい(須山)

締切を4月上旬あたりに設定したらどうか スケジュールを早く決めてしまったほうが良い(須山)

年に1度募集をしていけばよい(須山)

3月31日を締切に募集でよいか(鈴木)

締め切ったのち、部会で提出されたものを検討する(鈴木)

申請書を部会員で共有し、それぞれが確認してから部会を開催するのがよい。(須山)

事務局で申請書の例を作成した(鈴木)

商品と大地との結びつきを説明する必要がある 参考にしてほしい(関谷)

登録することのメリット、商売に結び付く仕組みがあったほうが良いのでは(高橋)

ジオブランドのものを優先的に物産展にもっていくなど(高橋)

事務局では「下仁田ネギ」と「こんにゃく」はまとめて登録できたらと考えている 下仁田で作ったねぎとそのほかの差別化にもつながると考えている(鈴木)

要綱に、「現物の提供ができるものは現物を付ける」を加えたらどうか(森川)

画像を提供するのは年齢によっては億劫になるので、事務局で代行できるといい(森川)

募集は広報を使って告知するのか(高橋)

協議会に商工会、飲食店組合などが入っている そこから告知していく(鈴木)

広報には間に合わないのか（下山）

チラシを入れることは可能（鈴木）

広報での告知と、商店等に直接案内をしていく両方やるべき（森川）

今回はまず、今までの商品を拾い上げるのが目標で、新規の商品は今後の目標ということでよいか（高橋）

ジオパークブランドそのものの認知も同時にあげていく必要がある（下山）

ぐんまちゃん家や SNS での発信などしていけるのでは（森川）

道の駅にポスターなど貼れないか もっと道の駅を活用できると思う（下山）

メリットを考えていくよりも、「ジオパークの宣伝に協力してもらおう」というスタンスのほうがマッチするのでは（須山）

「今森川さん店でお酒を販売してもらっているが、ノベルティがあるといい」などなにか意見はないか（鈴木）

ジオパークのレジ袋を提供してもらえると嬉しい（森川）

ジオツアーではいつもジオ定食などをすすめている（森川）

ワンコインで買えるものが売れる（森川）

まずは動き出したほうがいい 反応や問題などが出で来るはず（須山）

今月中にはチラシを配布できるのか（森川）

その予定で進めます（鈴木）

募集を始めた段階で新聞に掲載したほうが良い（高橋）

ねぎに関しては育て方のこだわりがある 登録は慎重にしたほうが良い（山田）

農家に個別に申請してもらったほうが良いのでは（高橋）

緑箱、それ以外を分けずにまとめて下仁田産であることを示していくことはブランドを守るうえで重要（須山）

下仁田産のねぎは贈答用として作っているの、一般消費者向けの生産をしていない（山田）

ジオパークブランドを守っていくうえできちんとした調査を行うことにもお金をかけるべき（高橋）

科学的に調査といっても、地域の差よりも標準偏差のほうが大きいのでないか（山田）

下仁田ねぎの品種を作ったのは下仁田というのは确实 そこをおさえられれば良いのでは（山田）

農家が、栽培がなにか特別だったということはほとんどないのでは 流通やプロモーションによるころのほうが大きい（下山）

うきはの事例でも、データだけで差別化することはできていない そこに歴史的な背景を入れることで差別化をしている（高橋）